

## 体育科模擬授業における教師役経験を通して身に付ける省察の観点

安倍 健太郎<sup>1)</sup> 大西 祐司<sup>1)</sup> 住本 純<sup>2)</sup>

### Reflectional Viewpoints Gained through Student Teaching Experiences in Mock PE Lessons

Kentarou ABE Yuji OHNISHI Atsushi SUMIMOTO

#### Abstract

Our main goal is to clarify how teaching experiences in mock PE lessons gave rise to changes in the contents of reflective papers before and after student teaching experiences. In addition, our secondary goal is to examine what kind of reflectional viewpoints were learned through the experience.

The results we investigated are given below;

1. Students taking this course improved their teaching skills through the teaching experience. Consequently, they could make constructive comments regarding other student teacher's teaching skills after mock lessons.
2. Teaching experiences might be one factor in gaining higher reflectional viewpoints about an entire course plan, such as unit learning or evaluation plan.

Key words : Mock PE lessons, Reflection, Teaching Experiences

キーワード：体育科模擬授業，省察，教師役経験

---

1) スポーツ学部      2) 京都ノートルダム女子大学

## 1. 問題の所在

平成27年12月に文部科学省、中央教育審議会から「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」の答申が告示され、その中で、実践的指導力の基礎の育成が課題の一つとして挙げられている。教員養成段階では、教科指導の実践的指導力育成のために、模擬授業を取り入れた教員養成プログラムが実施されており、びわこ成蹊スポーツ大学においても「学校スポーツ専門実習Ⅰ」を始めとして、模擬授業形式の授業が行われている。模擬授業とは、実際に児童や生徒、学生に対して授業をする前に、練習として授業をしてみることである。模擬授業を経験することによって獲得・向上ができる成果として、藤田（2013）は、①教授技術、②授業を省察する力、③体育授業の実施に必要な知識や能力の三つを上げている。木原ら（2007）は、先にあげた三つの観点の中の「省察（reflection）」が、近年注目されていると述べている。柏崎（2007）は省察に関して、教師は自らの授業実践を振り返り、反省して、よりよい授業を創り出すようになると述べている。体育模擬授業における省察に関しては近年さまざまな研究がなされている。日野ら（2009）は大学生相手に行う模擬授業、実際の中学生相手に行う模擬授業、教育実習の3つの授業においてどのような「省察」をしているか、その構造を明らかにし、省察能力は模擬授業の実践を重ねると段階的に向上することを明らかにしている。また藤田（2011）は模擬授業において教師役を経験することの意義を、リフレクションシートの記述数に着目し、量的に検討した結果、教師役を経験することによって、「教師行動」から「教材・教具・学習課題」へ、授業を「省察」する視点の転換がみられた。特に、「教材・教具・学習課題」について批判的に評価する視点の獲得がみられたと述べている。しかしこ

の研究では、教師役経験前と、教師役経験後の省察の内容がどのように変容したかといった、質的な検討までは行われていない。

## 2. 目的

本研究では、体育模擬授業において教師役を経験した受講生のリフレクションシートの省察の内容が教師役経験前と経験後でどのように変容したかを明らかにし、教師役経験を通してどのような省察の観点を身に付けたかを検討することを目的とする。

## 3. 方法

### 1) 調査対象

びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部スポーツ学科において開講されている、学校スポーツ専門実習Ⅰの授業の受講者67名の内、模擬授業において教師役を経験した36名の学生を対象とした。

### 2) 対象授業の展開

対象とした「学校スポーツ専門実習Ⅰ」の授業は2017年4月17日から、7月24日にかけて計15回の授業が行われた（表1）。この授業は、3年生の前期に開講されている科目であり、体育実技領域を対象にゼミ単位で模擬授業を計画・実施し、授業後に改善に向けて協議とリフレクションを行う。このサイクルを繰り返すことで（図1）、受講生が保健体育授業に関する専門的知識や実践的指導力を身

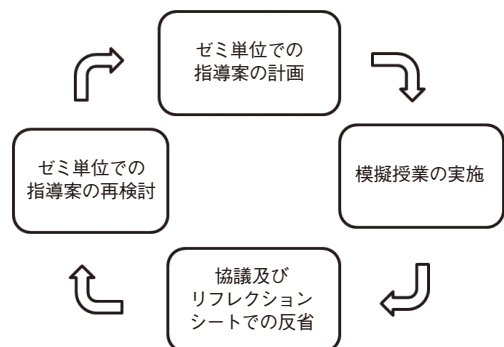


図1. 本実践の学びのサイクル

表1. 学校スポーツ専門実習Ⅰの展開

回	授業内容	種目
1	オリエンテーション、担当者決め	
2	模擬授業① 球技・ゴール型	ダブルゴール・フットビー
3	模擬授業② 球技・ベースボール型	チュックベースボール
4	模擬授業③ 体づくり運動	体力を高める運動
5	模擬授業④ 器械運動	跳び箱運動
6	模擬授業⑤ 体づくり運動	体ほぐしの運動
7	模擬授業⑥ 球技・ネット型	バドミントン
8	模擬授業⑦ 器械運動	マット運動
9	模擬授業⑧ 陸上競技	走り幅跳び
10	模擬授業⑨ 武道	柔道
11	模擬授業⑩ ダンス	現代的なリズムのダンス
12	模擬授業⑪ 水泳	クロール
13	模擬授業⑫ ダンス	フォークダンス
14	模擬授業⑬ 陸上競技	ハードル走
15	まとめ	

に付け、授業省察力を高めることを狙いとして行われている。

### 3) 対象授業の概要

本授業の受講者は67名であった。第一回の授業の際に、授業の運営方法の説明、組織的観察法の復習を行い、その後ゼミごとに模擬授業で行う種目の選択を行った。授業の展開と行った種目に関しては、表1に示す通りである。模擬授業の立案、実施に関しては、7つのゼミごとに実施した。教師役及び観察役は、授業を立案したグループが、生徒役はその他のグループの学生が行った。

教師役は、50分間もしくは45分間（対象校種によって時間を設定）の授業を導入、展開、まとめのパートごとに三人で交代しながら行った。観察役は、授業中の期間記録や相互作用行動を記録する係、授業の様子をビデオ撮影する係などに分かれ、授業の様子を外側から観察する係である。生徒役は、教師役が行う授業に生徒として参加し、授業終了後には、その時間の学びの実態の把握のための形成的授業評価（長谷川ら、1995）を行った。また毎回の授業課題として、リフレクションシートを課した。授業で取り扱う種目に関しては、第一回の授業で教員から指定を行った。対象授業の概要は下記の表2に示した。

表2. 対象授業の概要

受講生	67名	学校スポーツコースの3年次の必須科目である。なおこのコースに属している学生は、ほとんどが教員免許取得希望の学生である。
ゼミの人数	3～10名	7つのゼミごとに、授業者班を設定した。最少3名、最大9名の人数であった。6つのゼミが二回の模擬授業を、一つのゼミが一回の模擬授業を行う。
教師役	3名	導入、展開、まとめのパートごとに50分もしくは45分の授業を三人で交代しながら行う。
生徒役	50名程度	教師役を行うゼミ以外の学生が生徒役として授業に参加する。
観察役	6名	ビデオ撮影係2名、期間記録係2名、相互作用行動記録係2名の計6名が観察者として授業の記録を行う。なおこの記録は翌週の授業時に受講者にフィードバックを行う。
教材選択	教員が決定	学習指導要領の運動に関する領域から、各ゼミで選択を行い、全ての領域を行う。
指導案作成	授業外で各ゼミで行う	教材研究、指導案作成を授業時間外に各ゼミ単位で行った。指導案に関しては各ゼミの担当教員が添削を行う。
振り返り	リフレクションシート	授業終了後にリフレクションシートを課題として配布し、振り返りを行う。

### 4) データの収集方法

毎時間の学習課題としてリフレクションシート（図2）を配布した。このリフレクションシートは、毎回の模擬授業後に次週までの課題として学生に配布され、図2に示したそれぞれの欄に記述させた。データの収集に関しては、教師役を行う前の週の模擬授業のリフレクションシートの記述内容を「教師役経験前の省察」とし、教師役を行った翌週の模擬授業のリフレクションシートの記述内容を「教師役経験後の省察」として、教師役を行った授業回の前後の授業のリフレクションシートをデータとして収集した（図3）。対象と

	本時はどのように なされていたか	評価する理由	自分なりの 改善点
学習内容			
学習環境			
教師行動			
組織的 観察 法	観察結果	観察結果に関する考察 (なぜそのようになったか)	
	期間 記録		
	相互作 用行動		

図2. リフレクションシートの記述形式

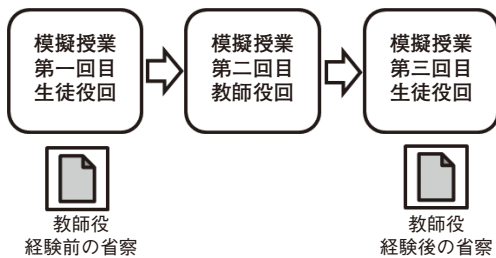


図3. 教師役経験前と教師役経験後の記述

なった学生は教師役を行った36名であった。

### 5) 分析方法

日野ら（2009）の研究を参考に、省察の内容を明らかにするためにKJ法（川喜多，1967）を採用し、以下の段階で分析を行った。①学生が記入したリフレクションシートの内、改善点の記述内容を、ひとつずつカードにし類似度に合わせて分類を行った。なお記述欄の中に二つ以上の内容を書いていた場合にはそれぞれを一つとしてカウントした。以下、記述内容の具体例は『 』内に示す。②類似度に合わせてカードをまとめていき、これ以上分類が出来なくなった時点で、カードのまとまりに名前を付け、これを概念とした。以下、概念は＜ ＞内に示す。③名前を付けた概念をさらに類似度に合わせてまとめていき、分類不能になった時点でまとまりに名前を付け、これをカテゴリーとした。以下、カテゴリーは【 】内に示す。④最後の各カテゴリーを類似度によってまとめ、大カテゴリーとした。研究のデザインに関しては、藤田ら（2011）の研究を援用した。なお今回の研究ではリフレクションシート内の「自分なりの改善点」の記述内容に関して分析を行うこととした。

## 4. 結果と考察

教師役経験前には115個の記述を、教師役経験後には120個の記述を行っていた。教師役経験前の記述と教師役経験後の記述をそれぞれ類似度に合わせてまとめていったとこ

ろ、教師役経験前には7つのカテゴリーに、教師役経験後には8つのカテゴリーにまとめられた。教師役経験前と教師役経験後の省察の内容の変容を図4に示した。また教師役経験前、教師役経験後ともに授業の内容的条件と授業の基礎的条件の大カテゴリーにまとめられた（表3，表4）。以下、分類された大カテゴリーである、授業の基礎的条件と授業の内容的条件の観点から教師役経験前と教師役経験後の省察の変容を考察する。

### 1) 授業の基礎的条件

授業の基礎的条件に関しては教師役経験前と教師役経験後で抽出されたカテゴリーに大きな違いは見られなかったものの、指導方略のカテゴリーで、教師役経験後に＜効率的な授業の展開＞、＜グループ学習の行い方＞、＜授業前の準備＞、＜授業後の片づけ＞、＜準備・整理体操＞といった概念が教師役経験後に新たに抽出された。これらの概念は教授技術の中でも特に授業のマネジメントに関わる内容である。長谷川（2003）によると、体育模擬授業の進行によって、受講生の教授技術は模擬授業を通じて向上することが指摘されている。また梅野ら（2010）は、体育の模擬授業の効果として、行動として外部から観察可能な教授技術、特に「授業の基礎的条件」に関わる教授技術の習得があげられると述べている。これらのことから、教師役経験後に抽出されたこれらの指導方略のカテゴリーから、教師役経験を通して他の教師役の模擬授業における教授技術、特に授業のマネジメント方略について省察を行うことができるようになったことが考えられる。

### 2) 授業の内容的条件

授業の内容的条件では、教師役経験後において、教師役経験前には見られなかった【単元計画の修正】というカテゴリーが抽出された。教師役経験前には学習者や、学習の展開方法などの授業内の内容に関しての具体例で

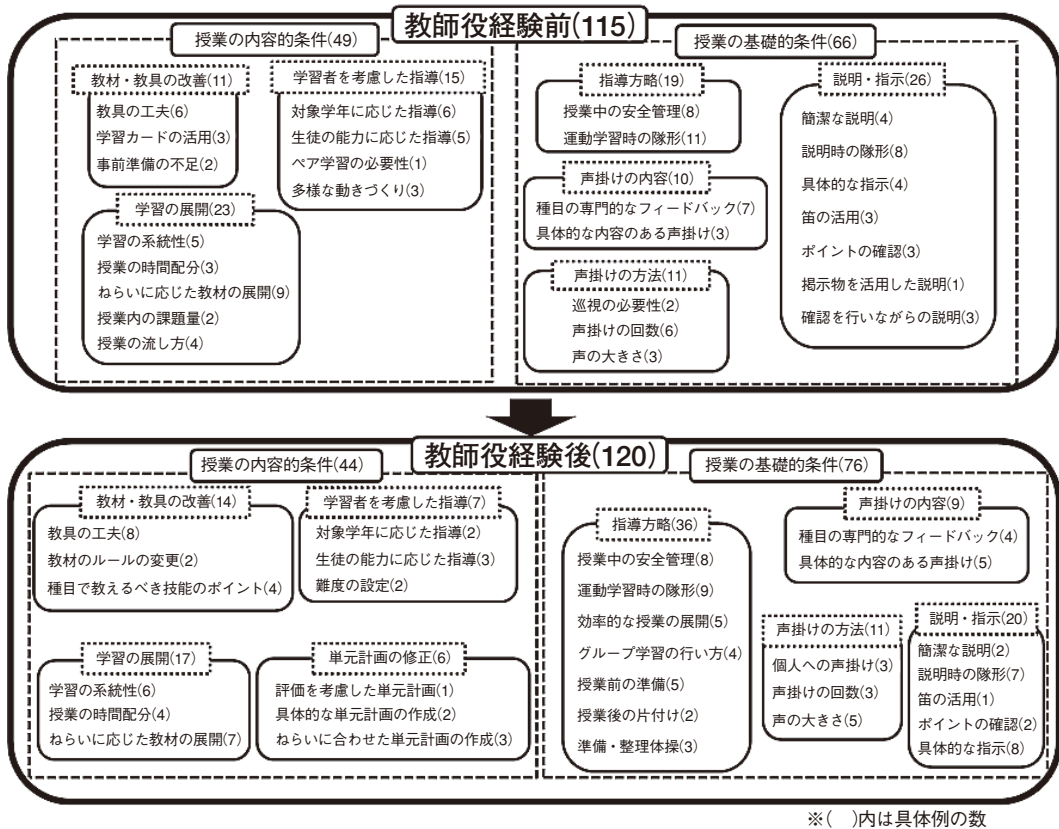


図4. 教師役経験前と教師役経験後の省察の変容

あった記述が、教師役経験後には授業内の内容だけでなく、行われた授業が単元のねらいにあっていないかといった具体例や、本時の内容が単元計画の中でどのような位置づけであったかなどの、授業の計画に関する具体例が見られるようになった。先行研究において、授業の計画に関する省察に関して言及されているものを概観すると、清水ら（2014）は、大学生が中学生を対象に行った模擬授業後の省察において、①教材観・児童観・指導観の未熟さ、②単元計画・時間計画（授業展開案）の浅薄さ、③評価計画の欠如が課題として抽出されたと述べている。また④授業目標と手段（教材）の妥当性、⑤指導と評価の一体化の検証についても省察されたことを述べている。また本学の模擬授業を対象に行われた、宮尾（2015）の研究においても、受講生は、模擬授業受講前には授業中に学習者を考慮す

ることが大切であると考えていたのが、模擬授業受講後には授業の計画段階の重要性を認識するという変化がみられたと報告している。本実践でも、教師役経験後には『単元目標や評価の観点を、跳べる生徒だけでなく、跳べないが頑張っている生徒も評価できる内容に変える必要があると思った。』といった単元の目標や評価に関する具体例や『単元計画は、踏切練習をしてから空中動作に入ったほうがつながりやすい。』といった学習の順序性についての具体例が挙げられたことから、教師役の経験は、単元計画や評価計画といった、授業の計画に関する省察の観点を身に付ける一因であったことが考えられる。

## 5. 結論

本研究の目的は、体育模擬授業において教師役を経験した受講生のリフレクションシー



表3. 教師役経験前のリフレクションシートの記述内容とその分類

大 カテゴリー	カテゴリー	概念名	具体 例数	具体例
授業の 内容的 条件	学習者を 考慮した 指導	ベア学習の必要性	1	ベアを作っていたけれど作る必要があったのか。お互いに見合い、評価する機会をとればベアにする必要があると思うし良いことだと思う。
		対象学年に応じた指導	6	小学6年がやるためには少しルールが難しいので、もう少し簡単にする。
		生徒の能力に応じた指導	5	運動をしている様子だったが、同じ運動が続いていた退屈そうだった。レベルに合わせて課題もあげられたらいいと思った。
		多様な動きづくり	3	運動強度や運動頻度を増やす。走る距離を長くしたり、フラフープを渡すだけでなく、身体活動をもう一つ付け加える。
	教材・教具 の改善	事前準備の不足	2	教材は良かったが、場所や事前準備をもっと考えていたら、マネジメント場面の減少につながったと思う。
		学習カードの活用	3	発問を受けなかった子供の事を考えワークシートなどを用いる。
		教具の工夫	6	ボールでは落下速度が遅く、少し難しく感じたので、風船などの方が良いと思った。
	学習の 展開	学習の系統性	5	最初にやった前転、後転そして展開で行った手押し相撲。最後に行った後ろ受け身の全てがつながってなかったように思う。
		授業の流し方	4	授業の流れを意識して、次に何をしなければならないかということを明確にしないと生徒が困惑してしまっていた。
		授業の時間配分	3	生徒の学習時間があまりにも少なかったのもっと生徒が学習にとり組む時間を増やす。
		授業内の課題量	2	一つの音に対して一つの動きであったが多くて覚えきれない。理解しないままグループ活動に移ったので学習しづらい、2つくらいで良かったと思う。
		本時のねらいに応じた教材	9	ねらいが変化のある動きに対して、変化があるのが微妙。楽器を使用するのは一人一つなので変化につなげるのが難しい。2～3人にすれば良い。
授業の 基礎的 条件	声掛けの 方法	巡視の必要性	2	先生がこまめに動いて、声掛けをする必要があったと思う。
		声掛けの回数	6	授業の進行に集中していたせいか、生徒への声掛けがあまりなかったように感じた。
		声の大きさ	3	巡視しながら声かけはできていたが、声の大きさがあまりなかったので聞こえにくかったので、もう少し大きい声で指導、指示を行う。
	指導方略	授業中の安全管理	8	踏切板で、勢いよく飛び過ぎて、マットを超えてしまう可能性があった。安全面を管理すべき。
		運動学習時の隊形	11	人数が多く、場の設定が難しいのでマーカーなどで区切り生徒の配置を管理すべきだった。
	声掛けの 内容	種目の専門的なフィードバック	7	もう少し、試合にむけての技術的なアドバイスができていたら良かった。
		具体的な内容を伴った声掛け	3	具体的な声掛けがなかったので生徒を伸ばすためにも声掛けを工夫する。
	説明・指示 の方略	説明時の隊形	8	説明の時に集まったり広がったりして展開がスムーズではなかったのでスムーズに行えるように工夫する。
		簡潔な説明	4	説明が丁寧であったが時間がかりすぎいていたので、もう少しまとめて説明するべきだった。
		確認を行ないながらの説明	3	具体性の説明ができていなかったので理解者が少なかった。なので確認をするなどしたら良かった。
		掲示物を活用しながらの説明	1	掲示物を用いて視覚化することでスムーズに説明が行える。
		笛の活用	3	説明するとき活動するときわからなかった。笛を使っても注目させるなどしても良かった。
		具体的な指示	4	「あっち」や「こっち」という言葉使いが多く、結局どっちを向いたら良いのか分からなかった。もっと具体的な方向を示す。
		活動中のポイントの提示	3	ポイントを達成するためには、どのような点に注意すれば良いかヒントを出す。わからない生徒はわからないと思う。

表4. 教師役経験後のリフレクションシートの記述内容とその分類

大 カテゴリー	カテゴリー	概念名	具体 例数	具体例
授業の 内容条件的	学習者を 考慮した 指導	対象学年に応じた指導	2	中1ということもあるので、そこまで言葉使いがきつくなるとかえて逆効果になってしまうかもしれないので場面に応じてやっていく。
		生徒の能力合わせた指導	3	個々で足幅が違うからハードル間の幅の違うコースをいくつか作った方がいいと思う。
		難度の設定	2	ステップの練習が難しい。子供同士でする理解が出来ない。
	教材・教具 の改善	教具の工夫	8	新聞球が飛びやすく、色々な方向に飛んで行ってしまうから、シャトルを用いてやっても良かったと思う。
		教材のルールの変更	2	フェアゾーンとファウルゾーンがなかったので、当たり方によっては横のコートに行ったりするので、ある程度フェアゾーンを決めれば良いと思った。
		種目で教えるべき 技能のポイント	4	もう少し戦術的な技術の練習も入れるべきだったと思う。(ネット際に落とすような打ち方)
	学習の 展開	ねらいにあった教材の展開	7	ビート板を手を持って練習したがそうすると足が落ちてしまうため悪影響だと考える。ビート板を足ではさませ、腰や足が落ちないようにまっすぐな姿勢で泳がせる。
		学習の系統性	6	ヘッドスプリングやネックスプリングなどの次の段階へ発展させるために、跳ねる動作などを取り入れる
		授業の時間配分	4	同じようなメニューが多くて、移動も多かったから全体的に活動量が少なく感じた。移動にもっとメリハリをつけて活動時間をその分ふやせるといいと思う
	単元計画 の修正	評価を考慮した単元計画	1	単元目標や評価の観点を跳べる生徒だけでなく、跳べないが頑張っている生徒も評価できる内容に変える必要があると思った。
		具体的な単元計画の作成	2	単元計画の所で、説明がだまかで、何をするのがわからに。露の時期ということもあるので、雨が降ることを想定して、副案を考える。作る。
		ねらいに合わせた単元計画の 作成	3	単元計画は、踏切練習をしてから空中動作に入ったほうがつながりやすい。
授業の 基礎的条件	指導方略	グループ学習の行い方	4	男女を分ける理由が分からなかった。それなら、男女均等に人数を分けて教え合いをしながらやっていくことが大切になるのではないかと思った。
		運動学習時の隊形	9	準備後のゲームでは、フラフープをもっと離しておく、もっと運動量も増えると思う。
		効率的な授業の展開	5	アップの時に走り終わった後に並ぶ隊形を伝えておくことで集める時間を省略できる。
		授業中の安全管理	8	隣のコートにボールがいってしまうと、ボールを踏んで怪我をしてしまうかもしれないので、もう少し工夫できたと思う。
		授業前の準備	5	マイクロティーチングをする。観点の不足、準備段階での不足があるので模擬模擬授業をする。
		授業後の片づけ	2	マットの片づけもできていなかったから、授業中に片づけまで出来るようにしないといけない。
		準備・整理体操	3	その授業で使った体の部位をしっかりとほぐすことのできる整理運動であったり、準備体操を行わなければいけないと思った。
	声掛けの 方法	個人への声掛け	3	一人一人に声をかけることが少なく、全員への声掛けが多かったのももう少し個人にかければ良いと思います。
		声掛けの回数	3	ゲームの中での声掛けというのは回数的にも厳しいので、練習の時にもっと声掛けを増やす。
		声の大きさ	5	先生と生徒の距離が遠くて説明が聞こえない時があったから、説明するときは、大きな声で説明したほうが良いと思った。
	声掛けの 内容	具体的内容のある声掛け	5	注意が多かったが生徒一人ひとりに対して、具体的にどういう風にするのかなどの指導が無かったのも、もう少し増やすべきだと思う。
		種目特有の専門的な フィードバック	4	技能面での声掛けがもっと必要で、教師が正しい知識をもっと指導出来ていたらと思った。
	説明・指示	具体的な指示	8	指示を出すときにあっちこっちではわからにので具体的に指示するようにすべきだったと思った。
		説明時の隊形	7	自分の後ろには生徒がいないという状況を作った上で説明を行う。
		簡潔な説明	2	説明を減らす工夫だったり、伝える内容をしぼって説明するべきだった。
		ポイントの確認	2	目的を伝えないと生徒は何も考えずに遊んでしまい、教材の意味がなくなってしまうと思うので、何がポイントであるのか伝えたほうが良かったと思う。
		笛の活用	1	うるさい時、話を聞いて欲しい時など笛を最大限に使う。注意やポイントなど声かけを行う。

トの省察の内容が教師役経験前と経験後でどのように変容したかを明らかにし、教師役経験を通してどのような省察の観点を身に付けたかを検討することを目的とした。得られた結果は以下の二点である。

①教師役経験を通して、他の教師役の模擬授業における教授技術、特にマネジメント方略について省察を行うことができるようになった。

②教師役経験は、単元計画や評価計画といった、授業の全体的な計画に関する省察の観点を身に付ける一因になったことが考えられる。

## 6. 今後の課題

模擬授業における省察は、模擬授業で扱う教材内容、指導者からの助言、男女共習や別習といった学習者の条件によって、その記述内容が大きく影響を受ける。今後はアクションリサーチのような研究手法で、少数の学生を模擬授業の計画段階から、省察段階、そして教育実習までに、どのような省察の変容がみられたのか事例的に研究を行っていくことが必要であると考えられる。

また今回の研究では、模擬授業における教師役のみに焦点をあてて研究を行ったが、一つの模擬授業において、観察役、生徒役との省察の視点はどのような違いが表れるのかを検討することで、模擬授業におけるそれぞれの役割で得られる省察の視点が明らかになることが考えられる。

また大学内で行われる、模擬授業においては、単発の授業であったり、実際の生徒を相手にしていないという問題があげられる。日野(2009)が、授業の「できる」「わかる」といった教科内容としての気づきに当たる「専門的指導」の省察の視点は、授業を単元で構成するなど単発の授業では省察の視点として現れにくいと指摘するように、今回の研究で明らかとなった、模擬授業で教師役を行うこ

とで得た、教師としての省察の視点を、さらに「できる」「わかる」といった教科内容の視点へと転換していかなければならない。これは今後、模擬授業を行った後の省察として、重要な観点であると考えられる。

## 引用・参考文献

- 藤田育郎・細越淳二(2009) 体育科模擬授業における学習成果の検討. 国士舘大学体育研究所報 (27) : pp79-86.
- 藤田育郎・岡出美則・長谷川悦示・三木ひろみ(2011) 教員養成課程の体育科模擬授業における教師役経験の意義についての検討—授業の「省察」に着目して—. 体育科教育学研究 第27号 (1) : pp19-30.
- 長谷川悦示・高橋健夫ほか(1995) 小学校体育授業の形成的授業評価及び診断基準作成の試み. スポーツ教育学研究14 (2) : pp91-101.
- 長谷川悦示・岡出 美則・高橋 健夫・萩原 武久(2003) 筑波大学における体育教師教育カリキュラム及び指導法の検討:「体育授業理論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業展開. 筑波大学体育科学系紀要 (26) : pp69-85.
- 日野克博(2003) 体育教師教育カリキュラムの検討—愛媛大学での模擬授業の実践を例にして—. 愛媛大学教育学部保健体育紀要 (4) : pp49-57.
- 日野克博・谷本雄一(2009) 大学の模擬授業並びに教育実習における省察の構造. 愛媛大学教育学部保健体育紀要 (6) : p47.
- 柏崎秀子(2009) 省察できる教師を目指したメタ認知能力の育成の試み—模擬授業の設計と主体的な学びの課程の省察—. 実践女子大学文学部紀要 (51) : pp36-46
- 川喜田二郎(1967), 発想法. 中央公論, pp65-114.
- 木原成一郎・村井潤・坂田行平・松田泰定(2007) 教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究. 広島大学大学院教育学研究科紀要 (56) : pp 85-91.
- 宮尾夏姫・三木ひろみ・柴田俊和(2015) 体育模擬授業における学習成果—授業・授業づくりの要点の理解と学習を促す授業体験の事例的



検討一．びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要  
(12)：pp93-104.

文部科学省「これからの学校教育を担う教員の  
資質能力の向上について（答申）」．[http://  
www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/  
toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/  
1365896\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf)（2017/10/17アクセス）

清水将・清水茂幸・栗林徹・鎌田安久・澤村省  
逸・上濱龍也（2014）体育科教育における教員

養成と現職研修を融合する教職実践演習のあ  
り方に関する検討—学習指導案の単元計画と  
評価計画に着目して—．岩手大学教育学部附  
属教育実践総合センター研究紀要（13）：pp79-  
88.

梅野圭史．海野勇三・木原成一郎他（2010）教師  
として育つ—体育授業の実践的指導力を育む  
には—．明和出版：pp40-42.